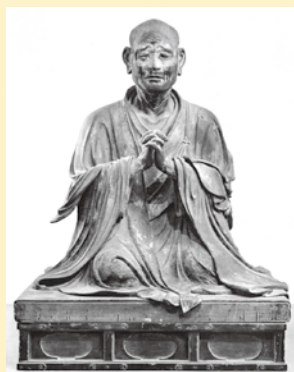


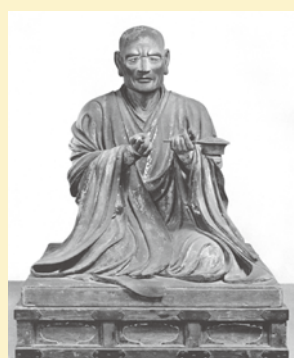
小野佳代 著

興福寺南円堂と法相六祖像の研究

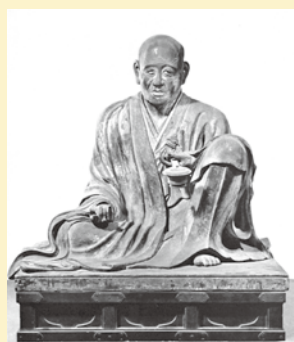
本書は、興福寺南円堂と堂内に安置される六体の法相六祖像を研究テーマとする。法相六祖像が手に執る柄香炉や坐り方、さらに法相六祖像を安置する南円堂の八角形構造などに注目し、それらの本来の意義や源流を説明することによって、その根本的特質である「供養的性格」を考究して、その制作目的をも明らかにしようとしたものである。仏教美術の交流史上、供養を行う天人や菩薩、僧侶、信者たちの姿をあらわした供養像は、古くはインドのバールフトやサーンチーに建てられたストウーパ（仏塔）に見られ、のちに仏教が中国に伝わってからは敦煌や雲崗・龍門などの石窟寺院の仏龕に好んであらわされた。さらにくだつては法隆寺の玉虫厨子にも供養比丘が描かれることなどに着目し、それらの仏を讃仰し供養を行う造立者の立場の観点をも視野にいれて、興福寺南円堂と法相六祖像の造立目的を明らかにした労作である。



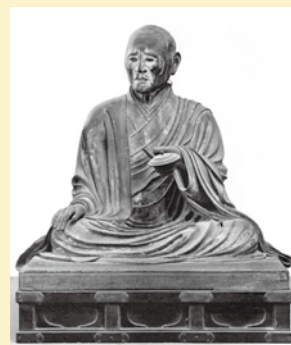
法相六祖坐像 伝玄昉



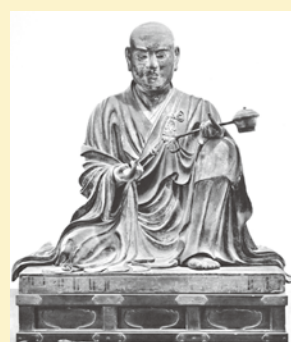
法相六祖坐像 伝玄奘



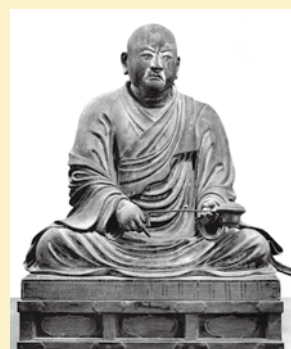
法相六祖坐像 伝行賀



法相六祖坐像 伝常騰



法相六祖坐像 伝神韻



法相六祖坐像 伝善珠

■A5判 本文336頁 口絵8頁 挿図113点

■定価12,600円(本体12,000円+税)

ISBN978-4-8055-0563-2 C3071

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋2-8-7

電話 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834

お取り扱い

序 緒言

第一章 興福寺南円堂法相六祖像をめぐる問題

はじめに

第一節 鎌倉の法相六祖像と平安の僧形六軀

第二節 法相六祖像の研究史

第三節 『山階流記』所引の「弘仁記」

第四節 日本における供養者像

第五節 法相六祖像に関する問題提起

おわりに

第二章 日本における八角円堂の誕生と起源

はじめに

第一節 興福寺南円堂の建立と問題点

第二節 八角円堂の起源

第三節 日本における八角円堂の展開

おわりに

第三章 法相六祖像の坐勢

はじめに

第一節 法相六祖像の像容

第二節 三種の坐勢の意義

第三節 現存の法相六祖像の坐勢―創建当初像との関係―

おわりに

第四章 柄香炉の用法

はじめに

第一節 香炉と焼香

第二節 『大正新脩大藏經』からみた柄香炉の用法

第三節 日本の文献史料からみた柄香炉の用法

第四節 美術作例にみる柄香炉の用法

おわりに

第五章 手に柄香炉を持つて跪く供養者像

はじめに

第一節 柄香炉を持つて跪く供養者像の意味

第二節 跪く供養者像の図像的源流

第三節 中国における供養者像

第四節 跪く供養者像の流行とその背景

第五節 龍門石窟における仏教信徒たちの信仰状況

おわりに

【龍門造像題記】

第六章 南円堂創建当初の僧形像六軀の制作目的

はじめに

第一節 興福寺法華会と本尊

第二節 法会における祈願の儀礼

第三節 咒願・三礼師の所作

第四節 善珠像と玄寶像

おわりに

第七章 鎌倉復興以後の法相六祖像の安置状況

はじめに

第一節 法相六祖像の安置状況に関する従来説

第二節 京博本興福寺曼荼羅図に基づく法相六祖像の安置状況

おわりに

結語

付論 神を数える柱について

第一章 神道における柱について

第二章 仏教における柱について

第三章 軀の訓みについて

おわりに

主要参考文献

あとがき



玉虫厨子(法隆寺)



興福寺南円堂

著者略歴

小野佳代(おの かよ)

1971年 東京都に生まれる

2001年 早稲田大学大学院文学研究科 修士課程 芸術学(美術史)修了

2004年 早稲田大学21世紀COEプログラム「アジア地域文化エンハンシング研究センター」客員研究助手

2007年 早稲田大学大学院文学研究科 博士課程 芸術学(美術史)修了
博士(文学)早稲田大学

現在 早稲田大学高等研究所 助教